

特定非営利活動法人 埼玉環境カウンセラー協会

Saitama Environmental Counselors Association (SECA)

協会だより 第 53 号



やまねのセカちゃん

〒330-0055

さいたま市浦和区東高砂町 11-1 ヌナレ 9F

ホームページ: <http://www.saieca.com/>

発行日: 2025年8月29日

発行人: 会長 中村 章

本号のラインアップ

会長挨拶	1
令和7年度通常総会を終えて	2
会員の取組	4
情報交差点	9
編集後記	12

会長挨拶

中村 章

総会も終わり、令和7年度事業も本格的にスタートいたしました。SECAの会員の皆様には引き続きお世話になります。本年度も多方面にわたる益々のご活躍を願っております。

さて地球全体を見ますと、私たちを取り巻く環境は大変なことになっています。ヨーロッパ、日本に限らず酷暑による最高気温の上昇が年々見られ、オーストラリアでは今迄では考えられないような大雪により数百台のクルマが立ち往生する事態が発生しました。本当にどうしたら良いのかと考え込んでしまいます。ある国のトップは地球環境保全とは真逆の発言と行動を繰り返し、大量の武器を使った紛争も絶えない状況です。何処に居ても自分たちの住む地域を良くしたいと思う気持ちは同じです。その気持ちが反発するのではなく同じ方向に向かう行動へと繋がって欲しいと願うばかりです。

SECAの取組につきましては、各自治体からの審議会委員等の推薦や各種団体との連携活動が増加するなど良い傾向が見られてきました。一方、SECAも含め各地の環境カウンセラー協会では会員数の減少と高齢化という課題を抱えており、ECU（環境カウンセラー全国連合会）も、環境カウンセラーの新規登録者数や会員数の増加のため各地域の協会を支援する取組を考えているようです。

SECAでは、前回の環境保全講習会は高校生・大学生、他の環境団体の参加協力を得て開催しましたが、今年度もこの連携・協力体制を維持しつつ、テーマとしては現在話題となっている「食品ロスの削減」を中心としたものを企画しています。

さらに、昨年度の環境研修会のように他県の環境カウンセラー協会との共催事業や情報共有の必要性を強く感じております。ECUとの連携も含めて具体的な取組を検討していきたいと思っております。

毎回お願いしていることですが、会員の皆様には活動の状況やSECAの活動に対する率直なご意見をお寄せください。皆様のご意見を踏まえ、当協会の活動をさらに充実・拡大していきたいと思っております。皆様には本年も当協会への引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

I 令和7年度通常総会を終えて

特定非営利活動法人埼玉環境カウンセラー協会の令和7年度(2025年度)の通常総会は、令和7年5月18日(日)14時～16時、埼玉教育会館103会議室で開催されました。

概要は、次のとおりです。

1 開 会(司会)星野弘志副会長

2 挨 拶 中村 章会長

3 御来賓挨拶文の披露

埼玉県環境部長 堀口幸生 様
(挨拶文は、下段に掲載)



4 議 事

正会員数26名のうち、出席者12名 委任状12名で、総会は成立し、以下の第1～5号議案は、全て承認されました。()内は説明者

(1) 第1号議案 令和6年度事業報告書について(角江副会長・事務局長)

(2) 第2号議案 令和6年度活動計算書について(片倉会計担当理事)
令和6年度監査報告(内藤監事)

(3) 第3号議案 令和7年度事業計画書(案)について(角江副会長・事務局長)

(4) 第4号議案 令和7年度活動予算書(案)について(片倉会計担当理事)

(5) 第5号義演 役員改選(角江副会長・事務局長)

5 閉会

【臨時理事会】

新任役員により臨時理事会が開催され、役職・役割が決定しました。

6 情報交換会

星野会員、前田会員による、「インカレ SDGs と連携したヘチマ・プロジェクト」、角江会員より、「熊谷エコライフフェアを通した環境普及啓発の工夫」について情報提供がありました。

さらに、星野会員から「食のサーキュラーエコノミーと食品ロス」について情報提供があり、今年度の環境保全講習会は、このテーマで具体的な取組を紹介する方向で意見が一致しました。

通常総会 御来賓の挨拶文

中村会長をはじめ、埼玉環境カウンセラー協会の皆様には、日頃から本県の環境保全活動に多大なる御貢献をいただき、深く感謝申し上げます。

地球温暖化対策や、資源・エネルギー問題、生物多様性の保全など、多岐にわたる環境問題を解決するには、県民・事業者・行政が一体となって地域の環境保全に取り組むことが重要となります。

環境カウンセラーの皆様が、県民・事業者・行政の架け橋となり専門的知識や豊富な経験を生かし、普及啓発活動から環境教育人材の育成まで幅広く携わっていただくことが本県の環境保全をけん引する原動力となっています。

このような地域における地道な環境保全活動が実を結んだ事例を一つ、御紹介したいと思います。

これまで本県のレッドリストでは、野生絶滅種とされていたムジナモが、羽生市の住民団体や大学等の長年にわたる保全活動の結果、自然増殖に転じ、全国でも稀な野生復帰を果たすことができました。

これは、生物多様性の損失を止め、反転させるネイチャーポジティブの正にシンボルともいえる事例であり、こうした成功事例を環境カウンセラーの皆様と共有しながら、地域に根差した活動を今後も全県に広げていきたいと考えています。

このほかにも本県では、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミーなど経済活動と環境保全活動を両立させながら、持続可能な社会の構築を目指す取組を進めているところです。

今後も、環境のスペシャリストとして、幅広い分野で活躍されている環境カウンセラーの皆様と手を携え、県民・事業者・行政が力を結集して環境保全活動を推進してまいりますので、御協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、貴協会のますますの御発展と御参会の皆様の御健勝を祈念申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

令和7年5月18日

埼玉県環境部長 堀口 幸生



【新役員体制】

任期：令和7年総会終了後～令和9年総会終了まで

理事（会長）	中村 章	重任	理事	堀中新一	重任
理事（副会長）	星野弘志	重任	理事	秋元智子	重任
理事（副会長）	角江紘一	重任	理事	丸岡巧美	重任
理事（事務局長）	前田則義	重任	理事	飯島 希	新任
理事（会計担当）	黒川正美	重任	監事	新井 智	重任
理事	大熊幸雄	重任	監事	片倉 寛	新任

気象予報士や防災士としてご活躍の飯島 希さんが新たに理事に就任いたしました。また、永年にわたり監事としてご尽力いただいた内藤定芳さんが退任されました。大変お世話になりました。新監事の片倉 寛さんは、理事（会計担当）からの転任となります。

Ⅱ 会員の取組紹介

1. インカレSDGsと連携したヘチマ・プロジェクト

前田 則義

昨年の11月18日、芝浦工業大学環境システム学科2年瀧澤氏から初メールが届きました。同年10月19日に開催された、当協会主催の第39回SECA環境保全講習会に参加の学生さんです。今回の講習会のテーマは、「若者と考える今後の環境市民団体の活動」でした。メールを見ると、同大学の中口先生のご紹介で、私たちの環境団体「つるがしま緑のカーテン市民実行委員会（愛称：みどりかぜ）」との共同プロジェクトに参加させていただくことになりました。とあります。

私の団体も高齢化が進んでおりますので、大学生のご参加は大歓迎です。

昨年の環境保全講習会で私の団体を選んでいただいた中口先生、また学生のみなさまに厚く感謝いたします。

早速ですが11月30日には、同大学大宮キャンパスで打ち合わせを行いました。大学の正門には大きなSDGsの看板があり、全学での取組みを実感しました。



芝浦工業大学SDGs宣言

具体的な活動の「地域・国際連携」では「国内外の市民、企業、行政、教育機関とのパートナーシップにより、国際社会や地域の課題解決に協働して取り組みます。」と明確に宣言されています。

また、SDGs学生委員会～綾いと～が2019年に発足し、活発な活動を続けています。

同日、2号館の教室で、環境システム学科2年生瀧澤さん、高橋さん、津田さん3名と打ち合わせを行い、校内への初の緑のカーテンの設置について検討しました。

【緑のカーテン設置準備状況】

その後、校内3カ所の設置候補地を検討し、学生食堂が第1候補に選ばれました。

本年4月14日には、大学管理課、学生課担当立ち合いの元、学生食堂に2面の緑のカーテン設置が決定しました。



B 区間 A 区間

私は、設置場所とカーテンのサイズが分かりましたので、必要資材費用と写真の資料を作り、学生さんに送りました。

瀧澤氏は、本事業の企画書を作成し、大学学生課に提出し承認後、活動を開始しました。



【緑のカーテン設置状況】

- ・実施日時 : 2025 年 5 月 14 日 (水) 14 : 00 ~ 19 : 10
- ・設置場所 : 大宮キャンパス 学生食堂
- ・協力の学生さん : SDGs 学生委員会 ~綾いと~ 21 名 (1~3 年生)

＜ 本日の内容 ＞

学生食堂棟の A 区間、B 区間 2 カ所に、幅 1.8m×奥行 0.4m×深さ 0.3mの土掘りを行う。A 区間にネットを張り、苗を植えました。

【作業中の写真：A・B 区間】



土掘り(A)



大きな石等を取る



コンポストたい肥等を入れる



ネット張り



苗を植えて完成(A 区間)



※B 区間は土掘りで終了



終了時に、みなさんと

【ヘチマの育て方教室に参加】

- ・開催日時：2025年5月17日（土）10：00～11：00
- ・場 所：鶴ヶ島市役所 4階 401会議室
- ・出席者：瀧澤さん、高橋さん、岡村さん：SDGs学生委員会～綾いと～代表



講師：前田



会場みなさん



岡村さん、高橋さん挨拶



市の方を紹介



市と私から苗をプレゼント



ご参加の学生さん

※ これらの苗を大学に植え、現在も順調に育成中です。

【緑のカーテンとヘチマ・プロジェクト】

緑のカーテンは、通常ゴーヤ、ヘチマ、朝顔等を住宅壁面に設置することにより、その遮熱効果よりエアコンの使用時間削減等から「節電」に貢献します。また、植栽をヘチマにした場合、ヘチマたわしを食器洗いに使用すると「マイクロプラスチック削減」に貢献します。

鶴ヶ島市では、2023年度より、ゼロカーボン推進事業「ヘチマ・プロジェクト」として、「オール鶴ヶ島」で取組を進めています。

私は、世界の目標である「2050年カーボンニュートラル」達成は、極めて重要と考えています。

今こそ、Think Globally Act Locally「地球規模で考え、足元から行動せよ」が求められています。

＜ 私たちに出来ること ＞

- ・ヘチマで緑のカーテンを作り、省エネ・節電へ ➡ ゼロカーボンに貢献
- ・食器洗いは、ヘチマたわしを使用する ➡ マイクロプラスチック削減に貢献

私は、芝浦工業大学の学生さんと今後も「共同プロジェクト」を進め、多くの方にお知らせし、取組んでいただくよう微力を注ぐ所存です。

2. くまがやエコライフフェアを通した環境普及啓発の工夫

渡部良一 上田範文 角江紘一

この環境フェアへの協会からの参加は、19回目を迎えます。

「環境意識の向上」を目的とし、これまで高崎線沿いに在住の会員と意見交換を重ね、多くの研修で得た知識をも活かしながら、手を代え品を代えやってきました。2019年頃までは多くの来訪者を迎え、地球温暖化防止、いきもの、化学物質、廃棄物などをテーマに展開してきました。

来訪者を惹き付け、環境課題に気付きを促すことに展開のポイントを当て、やってきました。

これまで取り組んできたポイントを整理します・・・

- ・ 先ず、テーマの選定については、時の社会状況、世相、そして巷の話題から時期に即したものにしました。時には先取りも試んでいます。
- ・ 展開の方針は、親子連れでの来場が多いことから、先ず子供を誘い、親御さんの興味を拡大し、そして説得する。

照明、再エネのしくみ、電気分解・充電などを説明するエネルギー教室では、子供用のグッズでの説明で、大人も納得。

また、紙鉄砲、ゴム銃は好評でした。

- ・ パネルは、目を引くよう簡潔に、文字の大きさ、色使いなどに配慮。また、イラスト、写真を活用。場合によって、説明の流れを漫画にして展開。時には、からくりを仕掛けたパネルをも展開し関心呼びました。そして、細かな説明は持ち帰り資料にまとめました。
- ・ 質問箱を置きました・・・小学生からの質問もあり、丁寧に回答しました。その小学生の将来が楽しみです。

昨年度は、先ずはゲームなどを以て子供を惹きつけ、親御さんとも一緒に考えるよう、賞品付きの「環境クイズ」を出しました。

ところが、本番の環境の話をしようとなると、右図のように、難しそうな話には耳を貸さず、次のコーナーに行ってしまうケースが多くありました。あたかも動物園巡りです。来訪者の環境問題への関心がさめてしまったか・・・

これは問題！・・・コロナ禍の頃、フェアは中止に及んだ年もあり、社会は大きな被害を被りました。この環境ブランクが、関心どころを変えた可能性も疑いました。

今年度は、5月10日に開催され、「暑いぞ熊谷！」が合言葉になっていることもあり、温暖化防止をテーマにすることとしました。

昨年の反省を込め、関心を高めるために、ヒートアイランドを模した手作りの大きな傘を、展示パネル上空に展示しました。関連するパネル、資料も置きましたところ、昨年にも増し



出典「<https://kumagayanavi.com/info/event/kumagaya-eco2025/>」



昨年の展開の描像

て来訪者も多く、また、多くの質問も受けたのは、そのアピール効果でしょう。加えて、感心の高い人の来訪が多かったのには、やり甲斐を感じました。新しい展開の兆しを感じます。



ヒートアイランドの下で暑さの根拠を説明



電気分解と充電のしくみにうなづく

環境意識が、時の流れに応じて変動することは当然であり、理解できます。そのような現象に対峙し、私達の取るべき手だてについて考えてみます。

先ず、私達が展開しました環境イベントについて、上記の昨年度、今年度の展開から、来訪者の関心度の変化について考えてみます。

- ・ 先ず、上記のとおり、コロナのような大きな課題が社会を囲い込み、環境ブランクを引き起こし、関心が他の問題に移ってしまったように感じます。
- ・ 温暖化対策の必要性は理解されており、個人レベルでの対策はそれなりに取られていると思います。従って、「私は、やってるよ」と責任を果たしたかのように思い込み、それで終わりとなっているようです。温暖化対策に馴れてしまっている。
- ・ 尚、地球規模で考えますと、温暖化による社会への被害は甚大化してきており、個人のできる範囲を超え、「一人では、どうしようもない」の悲観さや「うちはやってるよ。よそはやってないのかな？」の疑念などから、無力感を招き、行動が消極的になる事も否めません。
- ・ ここに、行った対応がどれほどの効果があり、社会にどれほど寄与しているかまでの認識があれば、次のステップに臨むきっかけになるでしょう。個人の対応を評価するしるしを根付かせることが必要なのだと思います。

以上のように、関心度の変化の根拠は多様に考えられます。ひとりだけで、停滞しておれば、先に進まないことは当たり前でしょう。

次に、私達の展開した小さな範囲から 1 歩踏み込み、「環境意識の変化」についての情報を探してみました。根拠は多様であり、単なる 1 歩に過ぎないのかもしれませんが、目線が異なり、頭に置いて、俯瞰的に考えていかねばならないものでもありましょう。

曰く・・・社会は温暖化対策を強化すべきだと望んでいる。しかし、市民それぞれ「認識のギャップ」があり、個人の行動に繋がりにくい要素があるようだとのこと。対策への無力感もある。「自分 1 人ではどうにもできない。心配しても仕方がない」「温暖化対策は、無駄をなくす、我慢するもの」・・・負担感。

そして、温暖化対策については、広く対応を求める必要もあり、「個人でできること」に絞りすぎてきた面がある。脱炭素の社会づくりには繋がらなかった要素もあることは、反省すべきところであると。

また、市民の対応を分析した結果から、多くの例に倣い、なんとなく対策してきた人たちが多いようだ。その人たちは、「自分是对策を終わっている」と考えてもいる。加えて、その人たちが、何を、どう対策すれば効果的なのかを、知ることによって、多くが、更なる対策にかかることが期待できるとも。

私達が、イベント展開から得た反省と、1歩踏み込んで得た情報とも、大局的には同じ見解のようです。ここに必要なのは、市民それぞれが「自覚」するための「コミュニケーション」。周りの人々、特に次世代を担う若者と繋がり、お互いに理解を深める。その中で「どうする」を考え、具体化に向けて動く。社会の（自治体の）、そして、私たちの「リード」で促しましょう。

知恵と工夫でがんばりましょう！！



温暖化の原因を考える

Ⅲ 情報交差点

1. 新会員の御紹介

(五十音順)

大泉 操 (オオイズミ ミサオ)

登録年度 2023 年度

部門 事業者

性別 女性

専門分野 消費生活・衣食住、3R

主な活動地域 さいたま市

主な経歴

平成 11 年から務めた廃棄物処理業専門の行政書士事務所での経験、民間資格の環境系の資格を取得し環境保全活動を行ってきた経験から、EA21 や優良産廃処理業者認定のコンサル、産廃処理業者へ環境の負荷を低減する方法を提案。グループ会社や産廃協会女性部会の活動を通して続けている。

特記事項

資格:産業廃棄物処理法検定、環境社会検定試験(eco 検定)委員等:(一社)埼玉県環境産業振興協会女性部会、埼玉県 3S 推進協議会委員受賞歴:(公社)全国産業資源循環連合会会長より優良従事者表彰、埼玉県環境部長より産業廃棄物関係優良従事者表彰

抱負等

私は、廃棄物の管理を通じて自然環境の保全に貢献することを目指しています。

人々の暮らしと自然との調和を図るため、3Rの推進に加え、地域に根ざした資源循環型社会の構築を支援します。

また、自然の恵みへの感謝と共生の意識を育む環境教育を通じて、次世代に美しい自然を引き継ぐことを使命とします。

澤田 典大 (サワダ ノリオ)

登録年度 2024 年度

部門 市民

性別 男性

主な活動地域 桶川市

主な経歴

趣味である魚釣りと環境保全をマッチさせる活動を 2004 年から実施。具体的には魚釣りの大会、教室、体験会などでそれぞれの場所にあった魚の生態、生息環境、外来生物、水質、ゴミなどの環境関連についての講義を行っている。2022 年からは小学校でも「釣りを通した環境学習」として実施。

特記事項

NPO 法人日本釣り環境保全連盟フィッシング・エコ・リーダー、環境社会検定試験 (eco 検定)、公益財団法人日本釣振興会環境委員会、埼玉県環境アドバイザー、プロジェクト・WILD エducator、NPO 法人荒川流域ネットワーク理事、公認釣りインストラクター (JOFI 内水面)

抱負等

環境問題のシンポジウムや展示会などに参加するような初めから環境に意識の高い方々に説明するのは違い、意識の低い方々にいかにして興味を持ってもらうかを考えて活動をしています。その中で私は昔からの遊びで、自然相手、生き物相手の魚釣りを通して環境の話を組み込み、楽しく興味を持ってもらう活動をしています。

高村 裕美 (タカムラ ユミ)

登録年度 2021 年度

部門 市民

性別 女性

専門分野 地球温暖化、資源・エネルギー、消費生活・衣食住

主な活動地域 さいたま市

主な経歴

埼玉県公立小中学校事務職員として勤務。埼玉県環境アドバイザーとして教職員・児童生徒・PTA 等に地球温暖化や SDGs の授業・講演を行っている。環境アドバイザーとして上尾市図書館協議会委員、環境カウンセラーとして新座市環境審議会委員、さいたま市環境会議メンバーとしてさいたま市廃棄物減量等推進審議会委員に就任している。

特記事項

彩の国環境大学実践課程修了。環境社会検定試験合格。地球温暖化防止コミュニケーター。省エネ・脱炭素エキスパート(家庭分野)。中学校一種「社会」、高校一種「地理歴史」「公民」教員免許取得。

抱負等

現在、小学校で事務職員として平日フルタイム勤務をしています。また、高校 1 年と小学 4 年生の子の母親でもあり、毎日時間に追われながら生活していますが、子どもの時から環境問題には興味があり、環境カウンセラーとしてのお仕事は自分にとってとてもやりがいのあるものです。できる範囲で精一杯頑張ろうと思っています。

2. 会員の表彰等

当会の前会長で現在、理事をされている大熊幸雄さんが、令和7年度環境カウンセラー全国連合会会長表彰「環境保全功労者」を受賞されました。ここにご報告するとともに、大熊さんには改めてお祝いを申し上げます。

3. SECA主催・参加イベント等の予定

(1) 第40回環境保全講習会の開催予告

ア 日時 令和7年11月8日（土）13：45～16：15
イ 場所 さいたま宇宙劇場 第1・2集会室 （大宮駅西口徒歩1分）
ウ テーマ （仮題）「食のサーキュラーエコノミーの推進 ～食品ロス削減を中心に～」
エ 方法 インカレSDGs、彩の国環境大学修了生の会などと連携
埼玉県へ後援申請予定
オ その他 サイサン環境保全基金へ助成申請予定

* 応募方法等の詳細は、9月下旬以降、HPやチラシ等でお知らせ予定

【予定プログラム】

① 行政の取組

埼玉県

② 環境団体の取組

彩の国環境大学修了生の会・生活資源循環部会

③ 事業者の取組

合同会社ファンタイム 代表 松井 順子氏（環境カウンセラー）

2018年5月に食品ロス削減を目的として一般流通することが難しくなってしまった訳あり商品をメインで扱うスーパー「マルヤス」を立ち上げ、年間1000トン以上の行き場がなくなってしまった食品を販売することで同量の食品ロスの削減に貢献されています。

2021年12月には、マルヤス運営会社「合同会社ファンタイム」が、食品ロス削減を通じた温室効果ガスの削減に寄与したことが評価され、先進導入・積極実践部門にて、気候変動アクション環境大臣表彰を受賞しています。



（出典：<https://fun-time.co.jp/>）

④ 若者の取組

インカレSDGsの活動紹介

⑤ 質疑応答・フロアディスカッション

（２）（仮称）環境フェアさいたま

従来のさいたま市環境フォーラムは、より体験型のイベントとしてリニューアルされることとなり、本年度は次のとおり開催される予定です。SECAも体験型プログラムを準備して参加する予定です。

日時 令和7年10月18日（土） 10時から16時まで

場所 さいたま新都心駅東西自由通路

（３）2025富士見ふるさと祭り

例年、SECAが出展している富士見市のふるさと祭りは、今年は次のとおり開催される予定です。

日時 令和7年10月25日（土） 9時から16時まで

場所 富士見市役所周辺 （SECAの出展は富士見市民文化会館 キラリ☆ふじみ）

＊これらのイベントへの皆様のご参加をお待ちしています。会員の方についてはスタッフ参加を含めて積極的な参加をお願いいたします。



「不自然」（撮影：星野）



編集後記

昨今の酷暑によって、青少年の運動の機会が大幅に減少しているそうです。暑いからこそ必要と思われがちな水泳の授業でさえ、熱中症予防のため暑さ指数（WBGT）が一定値を超えると中止とする方針が出されています。青少年期に一定の強度で、一定の時間以上の運動をすることは、筋骨格や心肺の健康、肥満の予防などの肉体的影響はもとより、ストレスの軽減や学業成績の向上など様々な面で良い効果をもたらし、その後の人生の健康にも寄与すると言われています。

若者たちからすれば、「こんな環境に誰がした？」と言いたいところでしょう。私たち大人世代が二酸化炭素を中心とする多量の温室効果ガスを排出し続けて今日の気候変動を招いている一方、将来にわたってより過酷な環境で生きていかなければならないのは若者世代です。この世代間の不公平・不公正は気候正義（クライメイト・ジャスティス）に反するとして注目されています。

私たち大人は、もっと若者たちの声を聴いて、彼らと共に気候変動対策を加速させていく必要があるのではないのでしょうか。SECAはそうした方向性を引き続き模索していきます。今後とも、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。（星野）

